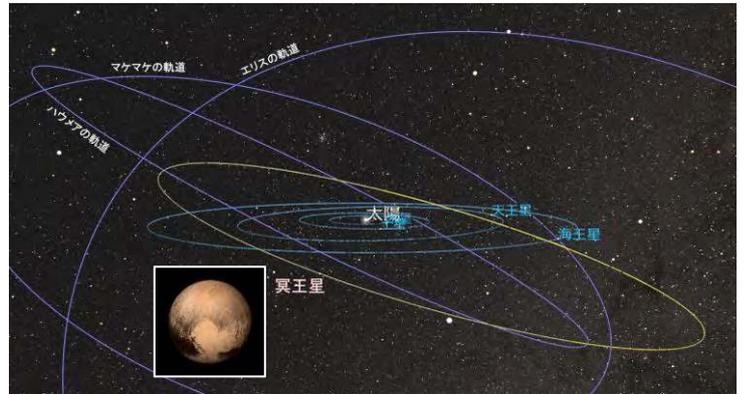


ジオスペース館だより

★ 冥王星が惑星ではなくなった理由は？

【太陽系の天体 その8】

1930年に発見され、太陽系の第9惑星となつた冥王星は、76年後の2006年、国際天文学連合の総会で、惑星ではないと決められました。その理由とは何だったのでしょか？

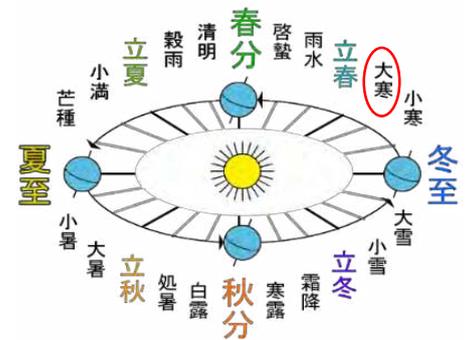


冥王星は発見された当初から、変わった惑星だと考えられていました。なぜなら、冥王星の軌道は大きく傾いた楕円形で、他の8つの惑星とは全く違っていたからです。また、大きさも地球の月より小さいことが徐々にわかり、月の3分の2

ぐらいの大きさで、このように小さな天体が惑星といえるのかと、疑問を持たれていました。その後、望遠鏡や観測技術が進歩し、1990年代から、冥王星の外側に次々と天体が発見され、2005年に発見された天体エリスは、冥王星と同じぐらいの大きさがありました。そこで、「冥王星が惑星なら、エリスも惑星なのか？」という意見もあり、「惑星とは何か」を決める必要が出てきました。このため、2006年、国際天文学連合は「惑星の条件」を定めました。それは、①太陽の周りを回っていること、②重力でほぼ球形になっていること、③その軌道の近くに他の同じような天体が存在しないこと。この3つの条件全てに当てはまるのが、惑星と決められました。冥王星の軌道周辺には、様々な軌道を持つ天体がたくさん発見されているため、冥王星は条件③に当てはまらず、惑星からはずされてしまったのです。現在まで、冥王星より遠くにある天体は続々と発見されていますが、そのお話はまた次回にします。

★ 二十四節気・1月20日は《大寒》

1年を24等分し、季節を表す二十四節気。1月下旬の節気は《大寒》と呼ばれ、毎年1月20日頃になります。《大寒》とは、1年で最も寒さが厳しくなる頃という意味で、冬の最後の節気です。大寒が終わる頃を「寒の明け」と言い、まだまだ厳しい寒さが続きますが、確実に春に向かって進んでいます。



★ 1月18日の満月は今年、最小！

1月18日の満月は、2022年に起こる満月としては最も遠い位置にあり、見かけ上、今年、一番小さな満月となります。月と地球の距離は平均約38万kmですが、月の軌道は楕円形をしていて、今年は、地球に最も近い時で約35万7千km、最も遠い時で約40万1千kmと、4万km以上の差があります。そのため、遠くに位置する時の満月は最大で12%ほど小さく見え、輝いている面が減って少し暗くなります。ただ、その変化に気付くのは難しいかもしれません。



月の実際の軌道(黄)と地球から描いた円(赤)

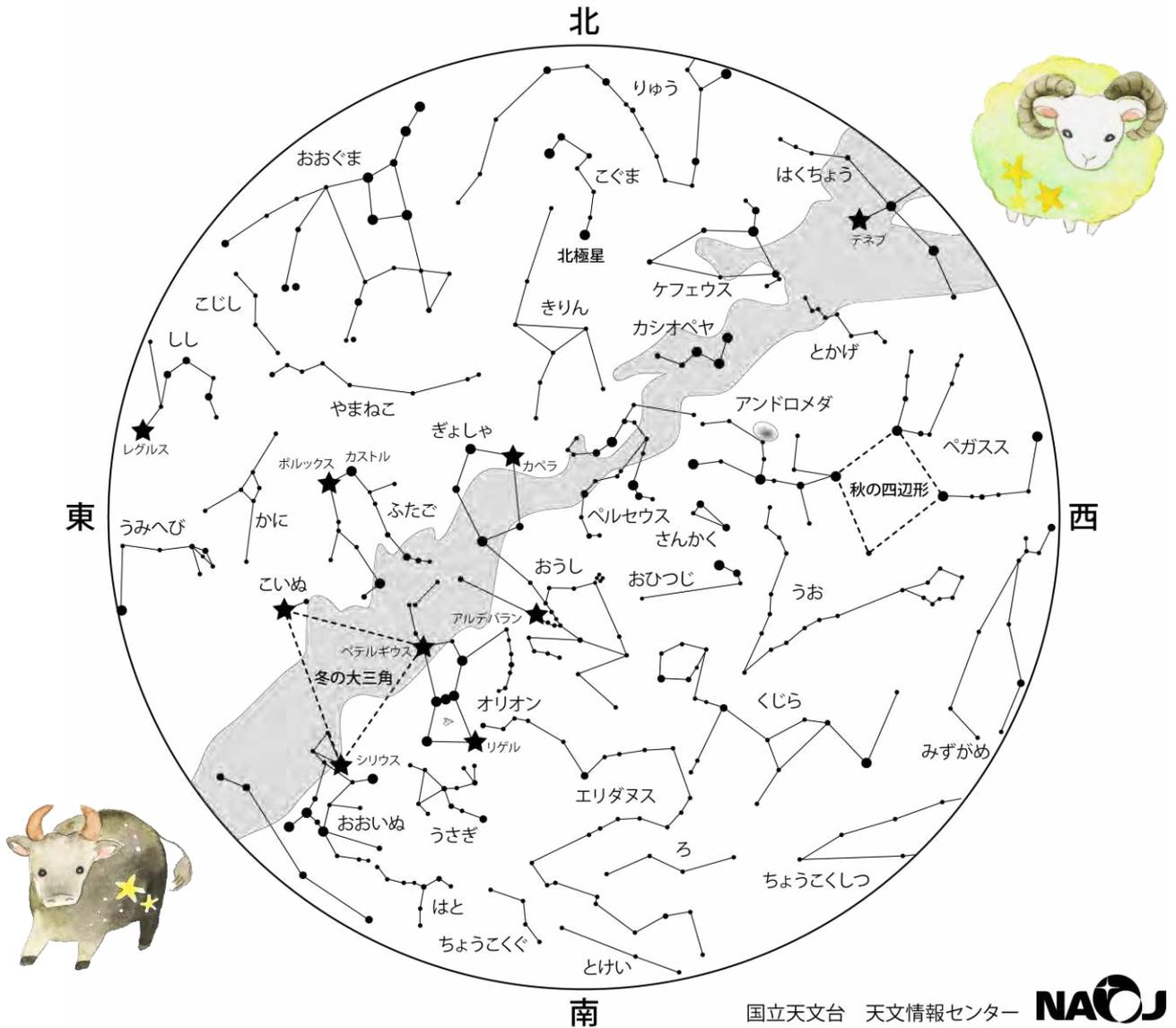
星図は、ステラナビゲーター11とMitakaを使用して作成

★ 1月のプラネタリウムの内容につきましては、別刷りの「投影案内」をご覧ください★

★ プラネタリウムのお休み 1/17(月)、19(水)、24(月)、31(月)

★ 新型コロナウイルス感染症対策で、入場定員を減らして投影しています。

1月下旬午後8時頃の星空



★ 1月下旬の主な天文現象

18日(火) ○ <small>まんげつ</small> 満月	26日(水) <small>かせい かん せつきん</small> 火星がM8に接近
20日(木) <small>だいかん</small> 大寒	29日(土) ~ 30日(日)
23日(日) <small>すいせい ないごう</small> 水星が内合	明け方の空で月が火星と金星に接近
25日(火) ● <small>かげん</small> 下弦	

★ 国際宇宙ステーション(豊川での主なデータ 1/15~31) ※ 下記時刻は、予想値です

◇ 1月16日(日) [見やすさ ◎]	18:26 南南西 ~ 18:29 東南東
◇ 1月17日(月) [見やすさ ◎]	17:38 南 ~ 17:43 東北東
◇ 1月18日(火) [見やすさ ◎]	18:26 西南西 ~ 18:30 北北東
◇ 1月19日(水) [見やすさ ◎]	17:37 南西 ~ 17:44 北東

豆知識：国際宇宙ステーション (ISS) は、明るい星が動いているように見えます。
飛行機のような赤緑ランプの点滅はありません。